

国立大学法人岐阜大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

岐阜大学は、「学び、究め、貢献する」地域に根ざした国立大学として、東西文化が接触する地理的特性を背景としてこの地が培ってきた多様な文化と技術の創造と伝承を引き継ぎ、学術・文化の向上と豊かで安全な社会の発展に貢献することを理念としている。第2期中期目標期間においては、人材養成を最優先事項として位置付け、質・量ともに充実した教育を行い、高度な専門職業人を幅広い分野で養成し、社会に輩出すること等を目標としている。

この目標達成に向け学長のリーダーシップの下、ポートフォリオの導入、シラバスの高度化、ファカルティ・ディベロップメント（FD）の充実を推進するとともに、全学的な教学マネジメント強化のため「教育推進・学生支援機構」の設置を決定するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長のリーダーシップの下、学長戦略室での検討を経て、環境科学分野及び生命科学分野の部局横断的な研究を促進する「学術院」を設置するとともに、入学から卒業まで一貫した教育支援を行う「教育推進・学生支援機構」の設置に向けた検討を行うなど、着実な組織整備を推進している。

【評定】 中期計画の達成に向けて**順調に進んでいる**

（理由） 年度計画の記載11事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（2）財務内容の改善に関する目標

（①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善）

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 基金を活用した奨学金事業など継続的な教育研究活動の充実を図るため、広く「岐

「岐阜大学基金事業」への協力を依頼し、547件、約2,500万円の基金への寄附を受け入れている。

- 生命科学総合研究支援センターの大型機器や動物実験施設等の共同利用を岐阜薬科大学との間で行うとともに、学内における大型機器の共同利用の促進を図ったほか、新たに学生を対象とした共同利用機器の教育コースを開設するなど、大型設備の学内外共同利用推進に取り組んでいる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 温室効果ガスの削減のため、照明設備や空調設備等の改修を実施した結果、二酸化炭素排出量を平成23年度比54t削減しているほか、地元金融機関と締結した「環境保全における連携に関する覚書」に基づき省エネポスターの公募などを連携して実施するなどの取組が認められ「岐阜市環境活動顕彰」を受賞するなど、環境教育や環境に関する研究・開発が地域社会に大きく貢献している。
- 岐阜駅前に新たに「岐阜大学サテライトキャンパス」を設置し、ラーニング・コモンズ等を整備するとともに、学部講義、大学院講義や、夜間開講のネットワーク大学コンソーシアム岐阜共同プログラム、シンポジウム等の開催を通じ、学内外約8,000人が利用するなど積極的に活用されている。

平成24年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 大学院生が学外で患者の個人情報記録されていたUSBメモリーを紛失する事例が

あったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべてが年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成 22 年度に基盤的能力として策定した「3つの力・9つの要素」を全学共通教育のシラバスに図示し、各授業において重点的に育成しようとする要素を分かりやすくするとともに、修得した能力を学生・教員の双方が確認できるポートフォリオを導入するなどの取組を推進している。
- 図書館で、所蔵の資料を画像データに変換しウェブサイトを提供するサービス (e-DDS) を新たに開始し、研究室から図書館に来館することなく文献を入手することが可能となり、図書館の利便性を高めるとともに研究活動の推進を図っている。
- 未来型太陽光発電システム研究センターにおいて、科学技術振興機構科学技術コミュニケーション推進事業「清流の国ぎふエネルギー・環境ネットワーク」を実施し、研究成果の普及と啓発活動を推進している。
- 応用生物科学部と岐阜県健康福祉部生活衛生課との間で覚書を締結し、狂犬病の診断や学生の実習など獣医公衆衛生学分野での連携協力を進めている。
- 大学院博士課程教育における海外大学との連携を図るため、大学院連合農学研究科を中心として東南アジア・南アジア地域(中国、インド、インドネシア等)の6か国9大学とともに、” The 1st UGSAS Roundtable & Symposium 2012” を開催し、アジア地域の産官学で活躍できる高度専門職業人を共同して育成する「アジア地域の農学博士教育の連携コンソーシアム」の形成を推進している。
- 「岐阜大学留学ガイドブック 2012」の新生全員への配付、総合海外実習科目や海外インターンシップ科目の開講、ダブル・ディグリープログラムや優秀学生海外派遣プログラムの実施、「海外留学フェア」の開催など学生の海外留学を促進する取組を行っている。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 岐阜薬科大学と連携して、研究課題 8 件に対し総額 600 万円の支援を実施するとともに、新たな医療技術や医療機器を迅速に開発し社会へ提供することを目的として、中部地方で病院を持つ 7 大学間で「中部先端医療開発円環コンソーシアム」を結成し、

臨床研究情報を集約するなどの連携を行っている。

(診療面)

- 若年期にがん治療を受ける患者に対し、がん生殖医療カウンセリングや不妊治療のサポート等の支援を行うため、学内のがんセンターを拠点とする「岐阜県がん・生殖医療ネットワーク」を設立し、生殖医療をはじめ、乳腺外科や小児科等、幅広い分野から病院の垣根を越えた医師が、患者に最も適した治療法を選択している。

(運営面)

- 地震や台風等の災害時に医薬品の援助や医師の人員派遣等、協力体制を構築するため、大学病院が調整役となって、岐阜県内外の41病院間で災害相互支援協定を締結しており、災害発生から2週間程度は相互に医薬品や食料の援助、医療スタッフの人員派遣等を行うこととしている。